

西田天香著 (好評百五拾版)

書叢園燈一

# 懺悔の生活

四六版四百三十頁  
背布函入堅牢美本  
コロタイプ版二葉  
定價金貳圓五拾錢  
送料金拾四錢

▽一絲響を發して萬管これに和  
す。本書を讀みて斷然家業の廢止  
したる娼家の主人あり。虚飾の生  
活を脱して十字街頭に奉仕し、善  
れを求むる道に充満す。靈界嚮導  
來る末に道に隠れ、靈界嚮導の  
▽永世に滅したりと言ふ乎。親  
光一卷の本書あたりと争へる親  
にも相親の世、仲隔たれ、國淨  
庭のみに此の實現されん。

▽洛外鹿ヶ谷に褐衣繩帶の一團あり、名けて一燈  
園と云ふ。同人は一物半錢を所有せず、常に懺  
悔の心を持って十字街頭に奉仕し、菩提心によ  
りて行乞す。その園主を西田天香氏となす。  
▽天香氏とは何人ぞ。嘗つて倉田百三氏の名作『出  
家とその弟子』が一世の讀書界を動かしし時、  
一部の人士は作中の親鸞と唯圓とを目して、暗  
に天香師の心の兩面を材としたるものと噂し合  
へり。吾人は茲にその當否を斷ぜず、只、倉田  
氏が西田師に私淑する事日久しきを言へば足る  
▽網島梁川氏は十數年前豫言して言へり。世は自  
らにして西田氏を知るの機あらんと。本書は西  
田氏を初め一燈園同人の行事逸話等を紹介批判  
せる一個の新らしき使徒行傳也。

504
70

終